

## タイムテーブル

### 第1日

時間	授業内容
0:00-0:08	課題の説明 映画をみるとはストーリーを追うことだけなのだろうか？ 映画は好きなものだけ写すことができるから、画面に映っているものには意味がある。
0:08-1:51	映画『PAPER MOON』の鑑賞。
1:51-2:02	課題の補足説明 ストーリーだけではなく、ストーリーを支える工夫を読もう。
2:02-2:30	グループで課題の検討。

### 第2日

各グループで自由時間に課題の検討。課題の回答の提出。

### 第3日

時間	授業内容
0:00-0:20	レジュメ1～3の解説:講義形式。 単純に映画を見るのではなく、映画を読んでみよう。何を読むのか。物語はストーリーとプロットでできている(E.M.フォスター)。ストーリーは粗筋で、「次はどうなったか？」という疑問に答える。「では、なぜそうなったか？」という疑問に答えるのがプロット。ストーリーはあくまで基盤で、その上のプロットに注目しよう。 表現の形式に決まりはないが、安心して見られるように作るポイントがある。例:劇や映画では、中心的な人物と状況を早く知らせる。しかもリアルに。劇では、人物は役割によって上手・下手に分けて登場させる。後半ではどんどんテンポを上げていく。
0:20-1:20	レジュメ4～8の解説:課題のある所では生徒が考えてきた回答を述べてから解説。DVDで該当のシーンを見ながら、進行。 例(5-2). 駅のシーンは2回ある。1回目はアディを1人でおばさんの家に送りだそうとする所。モーゼが正面に映るシーンでは、背景にボツンとアディが配置されている。切り返して駅員が正面に映るシーンでは、よく見ると駅の裏の大きな家で2人の子どもが遊んでいる。これは偶然映っているのではなく、技術的に工夫をして意図的に映したもの。アディの孤独な現状と憧れの対象を二項対立させている。2回目の駅のシーンでは、モーゼが正面に映るシーンの背景ではアディが楽しそうに動いている。ここにも先のシーンとの対比がある。
1:20-1:23	まとめ 映画を見て喜ぶだけでもよいけれども、「どうして面白いのか?」「どこが面白いのか?」と思った時に、今回の映画を「よむ」経験を活かしてほしい。
1:23-1:31	質疑応答